

学校経営計画

「子供たちの夢が広がる学校」
～笑顔のあふれる学校を作ろう～

世界的に流行している感染症の関係で、本年度も臨機応変な対応を余儀なくされる可能性は大きいと考える。学校生活を送るうえでの児童の心のケア、学習面でのカバーなど課題は山積している。

しかし、その中でも昨年度から、コミュニティ・スクールとして学校運営協議会が中心となり、地域の人材や環境を生かして学習支援、環境支援、防災教育といった様々な面で活動を進めていくことに方針は変わらない。

子どもたちが予測できない社会にあっても、たくましく未来を切り拓けるように多摩市教育振興プランに基づき、「知」「徳」「体」をバランスよく育むとともに、自己を向上させようとする学びの意欲・他者と協働してよりよく課題解決する力、周囲の人や社会に貢献しようとする態度や能力、思いやりの心を育む。

教育指導にあたっては、人権尊重精神を基に一人一人の良さを認め、互いに学びあう教育を基調とする。ルールや決まりを守り、落ち着いた学習環境の中で基礎基本を定着させ、学んだことをこれからの生活や社会に生かそうとする学びに向かう力や人間性、実際の社会や生活で生きて働く知識・技能、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等三つの力をバランスよく育成する。

また、保護者、地域、専門家等と連携・協働しながら学力を底上げする学習支援（地域未来塾、漢検・数検の取組）、安心して学校生活を送るための環境支援を進め、共感的で多面的な児童理解を基に、知識や考え方を活用したり実践したりする質の高い教育内容や多様な人との関わりを工夫し、心豊かに生き生きと学ぶ児童を育成していく。

1. 東寺方小学校の教育目標

人権尊重の精神に基づき、知性・感性・道徳心や体力を育み、調和のとれた豊かな人間性と自主的精神に満ちた子供の育成を目指し、「笑顔あふれる学校」を合言葉に以下の通り教育目標を設定する。

☆たくましい子（体）心身ともに健康で明るくたくましい子

※外遊びする児童を8割以上に

・おもいやる子（徳）心豊かで思いやりのある子

※明るい挨拶をする子を9割に

※いじめることのない子を9割に

・かんがえる子（知）よく考えて自分からすすんで活動する子に

※ユニバーサルデザインに基づいた授業の展開を

本年度も昨年度に引き続き、「たくましい子」を重点目標とする。

2. 学校経営の基本理念

子供達が健やかに育つように「子どもたちの夢が広がる学校」という願いを基に、「チーム寺方小」として、「笑顔のあふれる学校」を創る。

明日が楽しい学級・学年・学校経営を基盤に、すべての子どもが生き生きと学び、安心安全で信頼される学校であり続けるように、全教職員が「子供の今と未来に大切なこと」を考え、温かな指導、主体性と確かな指導力、よさを発揮し、子供の生きる力を育む学校経営を推進する。

コミュニティ・スクールとして、**学校運営協議会を設置**したが、教職員、保護者、地域の連携を密に協働体制を一層進め、地域人材や地域の資源を生かした豊かなふれあい、確かな児童理解、どの子にも分かるユニバーサルデザインに基づく指導を徹底する。そし

て、学校に関わる様々な人が子供の健やかな成長に向けて智恵や力を出し合い、子どもも大人も育ちあい、将来への夢や希望、取り組みたいことを膨らませ愛着と誇りを持てる学校を創る。

「子どもたちの夢が広がる学校」

- 明日が楽しい学級・学年・学校経営を基本に、「子どもの今と未来に大切なこと」を考え「チーム寺方小」として地域とともにある学校経営を行う。
- 人材育成・組織力の向上を図り、児童と教職員を認め、鍛え、伸ばしていく。

3. 目指す学校像

「子どもたちの笑顔があふれる」楽しい学校の創造

- 一人一人が瞳を輝かせ生活できる学校（自立）
- とともに学びあい、意欲にあふれる学校（共学）
- とともに生きようとする言動にあふれる学校（共生）

地域運営学校として、地域から愛される学校づくりを推進していくために、学校・保護者・地域社会が三位一体となった教育活動を展開し、子どもの「生きる力」を育成する。義務教育9年間を視野に入れて、知・徳・体の基礎的基本的な指導を行い、子供に品格と教養を育み、地元を誇りを持ち、地域社会に貢献できる人間としての基礎を養う。

4. 目指す児童像

- 心身ともに健康で明るくたくましい子
- 心豊かで思いやりのある子
- よく考えて自分からすすんで活動する子

児童が安心して学校に通えるには、所属感・存在感・充実感のある学校生活を送ることが大事である。この3つの要素が達成されたとき、安心感が生まれる。日常的に挨拶がきちんとできる児童、自分の存在を明らかにできる児童、自分のことだけでなく周りの人間のことを感じることができる児童の育成ができてこそ、児童は安心して学校生活を送ることができる。挨拶の励行、返事の徹底、きちんと後片付けができる児童の育成を日常の教育活動の中で育成していく。学校・保護者・地域が同じベクトルを向いて教育活動に関わることで児童の成長は何倍にも大きくなる。学校の教育方針を、地域・保護者に常に発信していく事で、同一の歩調で児童に関わっていくようにしたい。

5. 目指す教師像

- 公教育に関わるものとして、一人一人が使命と職責を深く自覚し、児童、保護者、地域からの信頼の向上に努める教師。
- 児童の意欲や心情を大切にしながら、受容的で温かいコミュニケーションと指導力の向上に努める教師。
- 児童一人一人に学びに向かう力や、豊かな人間性、小学校段階で身に付けさせなければならない基礎的・基本的な知識や技能、思考力・判断力、表現力等を育むことができる教師。

教育活動の連続性を踏まえ、報告・連絡・相談を適時・適切に行い、同僚、保護者、地域と連携・協働しながら教育内容の向上と、学校課題の解決に工夫して取り組む教師集団を形成する。興味・関心の幅を広げ、朗らかで時に粘り強く、時に大胆に実行するなど、教育活動を楽しんで推進していく教師集団を形成する。

そのために、教職員が児童と向き合い、学びの質を向上させることができるよう仕事分担の平準化、働き方改革への取り組み、支援が必要な児童への適切なPTや補助の配置、校務の電子化や文書教材のデータの共有化、会議の短縮、定時退勤日の設定等工夫して取り組み、仕事の効率化を図る。

「朗らかに 工夫して 最後までやり抜く教師」

- 子どもや保護者、同僚から信頼される教師。
- 人として大切にすることを考え行動する教師。
- 組織力を生かし、声掛け合って課題に主体的に取り組み改善する教師。
- 自己研鑽に励み、常に向上しようとする教師。
- 地域とともに、学校を創り上げる教師。

6. 教育目標を具現化するための取り組み

基本方針

(1) 明るくたくましい子を育成する

- ア 運動の習慣化、体力向上を目指す。我慢する心を育て、社会性を身に付けるために外遊びを奨励する。(なわとび、マラソン週間、きょうだい学年でのロング昼休みの遊び)
- イ 自分の体力について理解促進させ、よりよく生活しようとする態度を育てる。(体力テスト・コーディネーショントレーニング)
- ウ たくましい子の育成のために、粘り強く取り組む態度、あきらめない心、困難に立ち向かう態度を育成する。(2020レガシーの継承)

(2) 心豊かで思いやりがある子を育成する。

- ア いじめを許さない心、困難に負けない心を育て、いじめ、不登校を防止する。(アンケート実施)
- イ 明るい挨拶と言葉遣いの指導をする。(あいさつ運動)
- ウ 豊かな人間性・社会性を育成するために、「考え議論する道徳」の充実とルールを守る大切さの指導を徹底し、「心の教育」を推進する。(全校木曜日に道徳授業)

(3) よく考えて工夫する子を育成する。

- ア 学習意欲を引き出す工夫・個に応じた指導の充実を図る。(ユニバーサルデザインの手法の活用)
- イ 確かな学力と知力の育成のために基礎学力を確実に身に付けさせる。(はなまる習慣家庭へのリーフレット)
- ウ 学習規律を確立し、主体的に学習に取り組む基礎を作る。(寺小スタンダードの確立)
- エ 持続発展教育 ESD を推進する。
- オ 1人1台のタブレット端末の活用、オンライン学習の準備等、ハイブリッドな教育活動ができるようにしていく。

(4) 保護者・地域と連携し信頼される学校づくりをめざす。運営協議会を設置し連携を深める。

- ア 地域人材を活用したり、地域人材と交流したりする。
- イ 近隣の保・幼・小・中と連携を図ったり、情報を発信・共有したりする。
- ウ 世話人会等、地域との連携を図る。
- エ 保護者への対応は迅速に、学級通信の発行、ホームページ等で目に見える情報発信を心掛ける。

7. 今年度の取組目標と方策

(1) 切磋琢磨し互いに信頼しあい高めあう教師軍団に。

- ① 教育公務員としての自覚を忘れずに行動する。 **サービス事故0!**
- ② 明るく気持ちの良い挨拶が出来る先生方でいてほしい。
- ③ 一人で抱え込まず、組織で対応していく。何でも相談、情報交換。職員室は教育談義の場でもある。特にOJT研修の時間を設けずとも日々の話の中から学ぶことは多い。
- ④ 厳しくも温かい指導の出来る先生に。また、基本である週案はしっかりと学年で立てていく。教材研究は命である。
- ⑤ ビルド&スクラップ、働き方改革も含め仕事の取り組み方を工夫する。

- ⑥ 連絡相談報告は密に行う。教員も職場の人間関係が大切である。
- ⑦ やってみたいこと、変えていきたいことはどんどん相談。力を発揮してほしい。
- ⑧ 校内研究の充実を図り自分の糧となる研究を進める。特に特別支援の子供たちに対する指導や、ユニバーサルデザイン的な手法を学んだり授業に取り入れたりするなどの工夫をしていく。
- ⑨ 「学びを人生や社会にいかす」ESDの研究を更に深めていきたい。
- ⑩ 互いに高めあう教師集団を作るとともに若手の人材育成を推進する。
- ⑪ 地域行事への参加は可能な範囲でできるだけ。子供が喜ぶため。ウインズの活動についても支援していく。

(2) 安全で安心な学校づくりを推進する

- ① 安全なくして教育なし。危機意識は常に高め安全な学習環境づくりに努める。
- ② 安全に関わる事項の指導の徹底と子供も自己の安全を守る能力・態度の育成を図る。
- ③ 首から上の事故については特に家庭との連携を密にする。迅速な対応が大事である。
- ④ 食物アレルギーやその対応について共通理解を図り、事故の未然防止を徹底する。
- ⑤ 安全ボランティア等の学校外における様々な組織や団体と連携し、地域一体となって児童の安全確保のための予防と対策にあたる。

(3) からだを鍛え元気な子供を育成する

- ① なるべく子供と一緒に遊ぶ。その中から見えてくる人間関係が大事。
- ② 体育の時間は十分な運動量を確保し授業を充実させる。
- ③ 休み時間は、友達と一緒に外遊びをするなどの学級での取り組みも工夫する。月に1回以上のロング昼休みを実施する。
- ④ たてわりの活動を大切にし、きょうだい学年での遊びを保障していく。

(4) 思いやりのあるみんなと仲良く助け合う子供を育成する

- ① 特別支援教育の充実を図り、通常級に在籍する要配慮児童の支援及び特別支援学級との交流を通して相互に思いやる心の育成に努める。障害理解授業を実施する。
- ② 校内委員会を中心とした教育相談機能をさらに充実させ組織的な課題解決を図る。
- ③ 児童理解に努めつつ、児童個々に応じた生活指導の充実や、基本的な生活習慣の徹底を図る。個票ファイルの活用・整備を推進し、いじめの早期発見や不登校などの問題解決を図る。
- ④ 道徳の時間をより充実させ自他を思いやる心を育成し人権尊重の精神を培う。
- ⑤ たて割り活動をさらに充実させ、上学年児童には模範を示す態度を、下学年児童には規範意識をそれぞれ身に付けさせる。

(5) 確かな学力の定着と知力の育成を図る

- ① 授業の充実が児童の力を伸ばす。年間指導計画を基に教科横断的に教育活動を推進していく。コロナ対応による授業日数削減により、年間指導計画の見直しをして行く。
- ② 特別活動は児童を中心に充実した活動になるように工夫する。ロング昼休みの充実を図る。
- ③ 学校林、田畑、川などの自然を生かした教育の推進を図り、持続発展教育をさらに充実させる。
- ④ どの子も授業に参加できるようなユニバーサルデザイン的な手法を取り入れた授業を展開し、興味関心を高め学習意欲を引き出す。
- ⑤ GIGAスクールの構想のもと、新しく設置されたIT機器を積極的に活用し、デジタル教科書の活用、児童の1人1台のタブレット端末の活用を充実させていく。また、プログラミング教育を推進していくために、PCを使用するリテラシーを学び、各教科の中で積極的にプログラミング的思考が身につくような授業展開を行ったりする。

(6) 学校運営協議会を核としたコミュニティ・スクールの推進を図る。

定期的に、学校運営協議会に関わる委員会を開催し、地域学校コーディネーターを中心に、地域人材やボランティアとの協働によりネットワーク型学校経営システムを構築し、学校の教育力を高める。保護者・地域との連携による学校経営を評価する保護者を85%以上にする。